



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

2020年7月19日 年間第16主日A年

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：知恵の書12章13, 16-19節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 8章26-27節

福音朗読：福音朗読：マタイによる福音書13章24-30節（短い形式）

今日のテーマ：こころ配る神

福音朗読では三つのたとえ話が読まれます（毒麦のたとえ、からし種のたとえ、パン種のたとえ）。三つのたとえ話から共通してこころに思い浮かべることができるイメージは「成長」です。「天の国」（「神の国」）は、その人のこころの中で成長していきます。最初はごくごく小さく、わずかなものであっても、必ず大きくなっていく。毒麦と混じりあってしまい、麦が見えなくなってしまっても、それでも必ず成長していきます。神の存在、神の思い、神の恵みといったものは人のこころの中で豊かに成長していくのです。第一朗読では、「すべてに心を配る神」、「すべてのものをいとおしむ方」と神さまの姿を言い当てています。神は日常生活の中で働かれる方です。その働きは、人間の一人ひとりを心配し、こころを配るという仕方なされるのです。そんな神の姿を知っていれば、たとえ第二朗読にあるように「どう祈るべきかを知りません」と悲嘆に暮れる必要はありません。確かに日常生活には苦難と困難が待ち構えています。それでも、一人ひとりにこころを配る神は、人のこころの深いところで「霊」として存在しておられます。そして「霊」ご自身も、苦しむわたしたちと共に苦しみつ、うめきながら、わたしたちを天におられる神の方へと向かわせてくれるのです。

今日の聖句

「刈り入れまで、^{りょうほう}両方とも^{そだ}育つままにしておきなさい」(マタ13章30節)

^{どくむぎ}毒麦は^に小麦に^{しよくぶつ}似た植物です(^{ぎたい}擬態植物)。若^{わか}いときには^{くべつ}小麦と^{むずか}区別が難しく、しかも^い根が^く小麦と^ぬ入り組んでおり、^め毒麦を^ぬ抜こうとすると^ぬ小麦も^ぬ抜いてしまいかねません。小麦は^ほ穂が出ますが、^め毒麦は^ぬ穂が出ません。

たとえの^{かいせつ}解説の部分(34 - 43節)では「^お世の^{さば}終わりの^{してん}裁き」という^{してん}視点から、^{さば}毒麦のたとえを^み見ているようです。しかし、30節の^{かしょ}箇所だけを^{あじ}味わってみると、「今は^{さば}裁かない」という^{ひび}メッセージが^{ひび}ここに^{ひび}響いてきます。裁^わくのは^{かぎ}神さまご^み自身です。本当によい^わ麦か^{かぎ}毒麦かは^{かぎ}人の^{かぎ}目には^{かぎ}分らない^{かぎ}ものです。人の^{かぎ}目から^{かぎ}毒麦と^{かぎ}見えていても^{かぎ}神さまの^{かぎ}目にも^{かぎ}同じように^{かぎ}見えるとは^{かぎ}限らない^{かぎ}のです。

イエスさまのもとには^{つみびと}罪人と^よ呼ばれる^{あつ}人々が^{あつ}集まっていた。天の^ち国は「^ち知恵ある^ち者、^{かしく}賢い^{かしく}者には^{かしく}隠されている」からです。そんな^{すがた}イエスさまの^{ひはん}姿を^ま批判して、^ま毒麦が^ま混じっている、つまり^{まわ}イエスさまの^{まわ}周りには^{まわ}罪人が^{まわ}いると^{まわ}攻撃する^{まわ}人々が^{まわ}いたの^{まわ}かもしれません。毒麦の^{まわ}たとえば^{まわ}なしは、そんな^{まわ}イエスさまを^{まわ}取り^{まわ}巻く^{まわ}状況から^{まわ}生まれた^{まわ}もの^{まわ}だった^{まわ}ので^{まわ}しょう。

修道院からのお知らせ

ブルーノ神父さまが玉川病院に入院しています。足の手術のためです。どうぞお祈りください。

ルルドのあたりをきれいに整備してます。もしよかったらマリアさまにお祈りをおさげください。足元が危ないです。ルルドに降りる時は十分気をつけてください。司祭に声をかけてくだされば、下の門を開けます。